

DBViewer Plugin for Eclipse

利用マニュアル

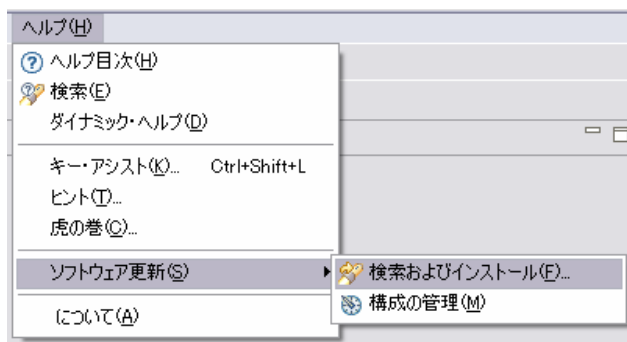
2007年4月8日

初版

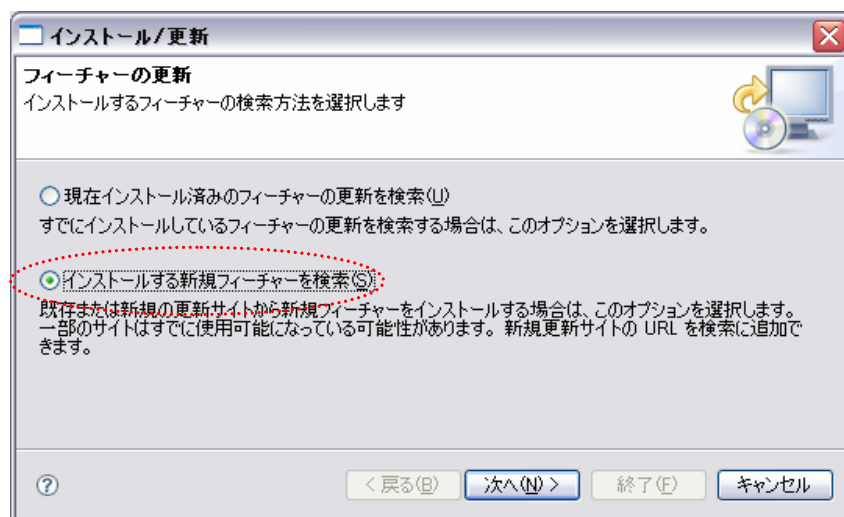
第1章 インストール

1. UpdateSite(更新サイト)を使ったインストール

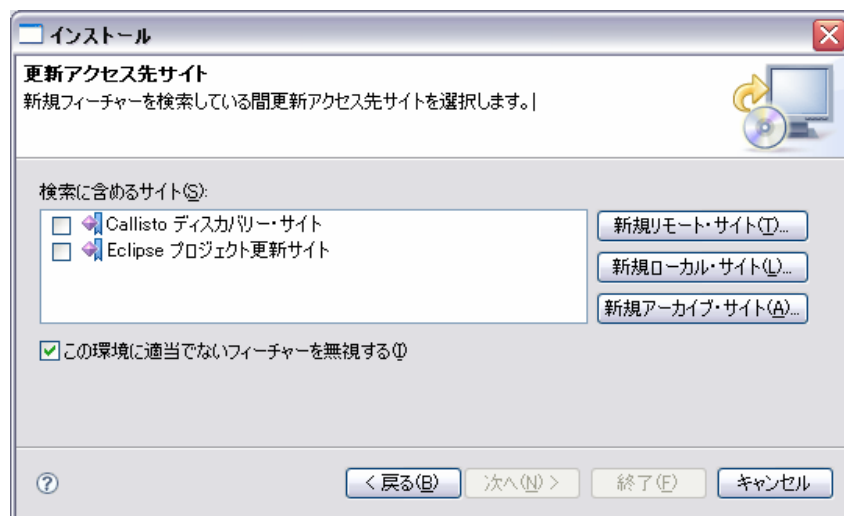
ヘルプ > ソフトウェア更新 > 検索およびインストール を選択します。



インストールする新規フィーチャーを検索 を選択して、「次へ」ボタンを押下します。



「新規リモート・サイト」を押下します。

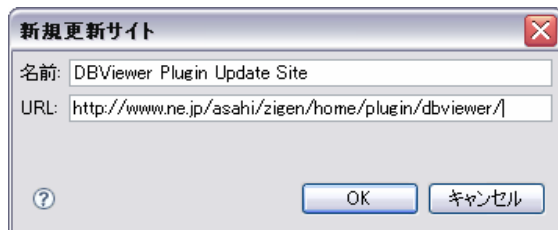


DBViewer Plugin for Eclipse 利用マニュアル

名前とURLを入力し、OKを選択します。

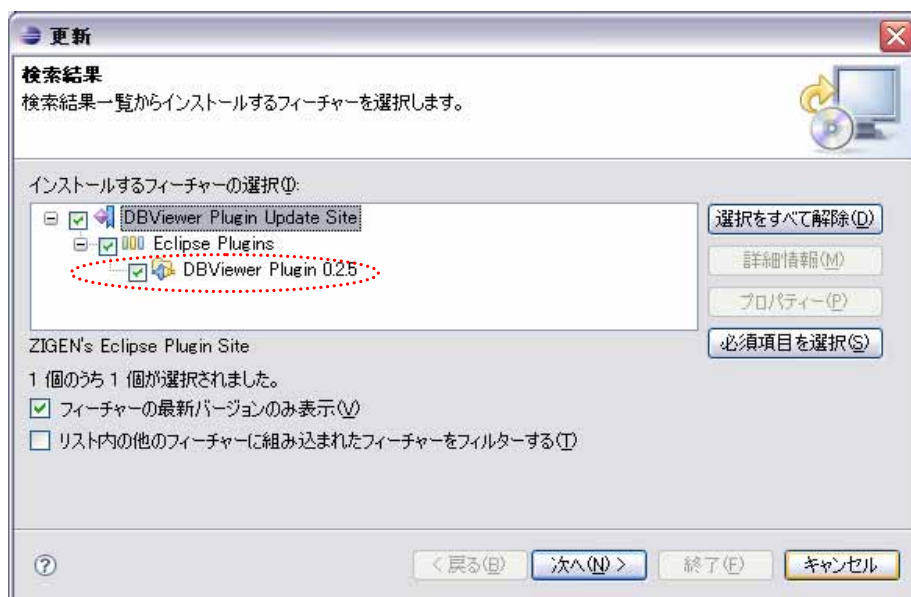
名前: 任意の名前

URL: <http://www.ne.jp/asahi/zigen/home/plugin/dbviewer/>

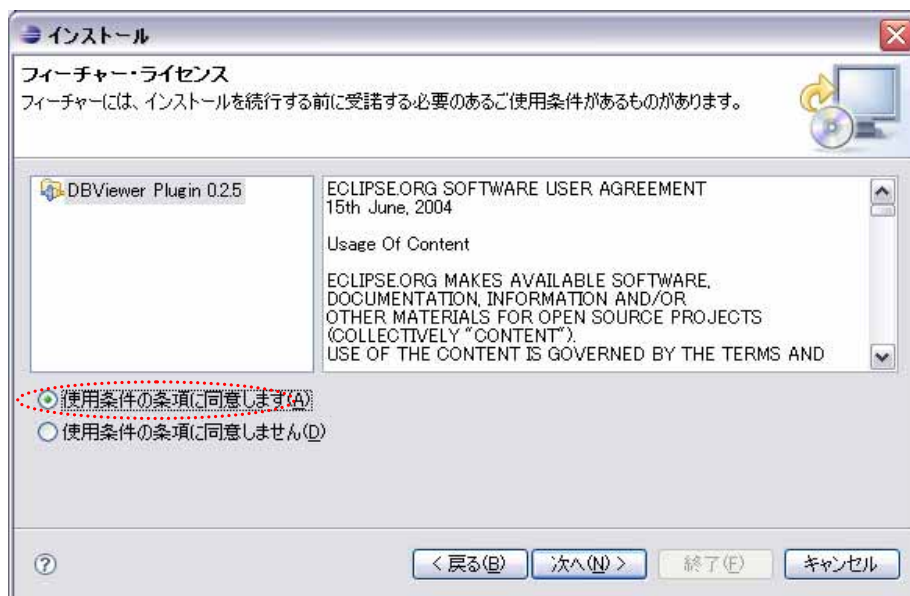


次に「終了」ボタンを押下します。

インストールするフィーチャの選択で、DBViewer Plugin X.X.X をチェックし、「次へ」を押下します。



使用条件の条項に同意し、「次へ」ボタンを押下します。

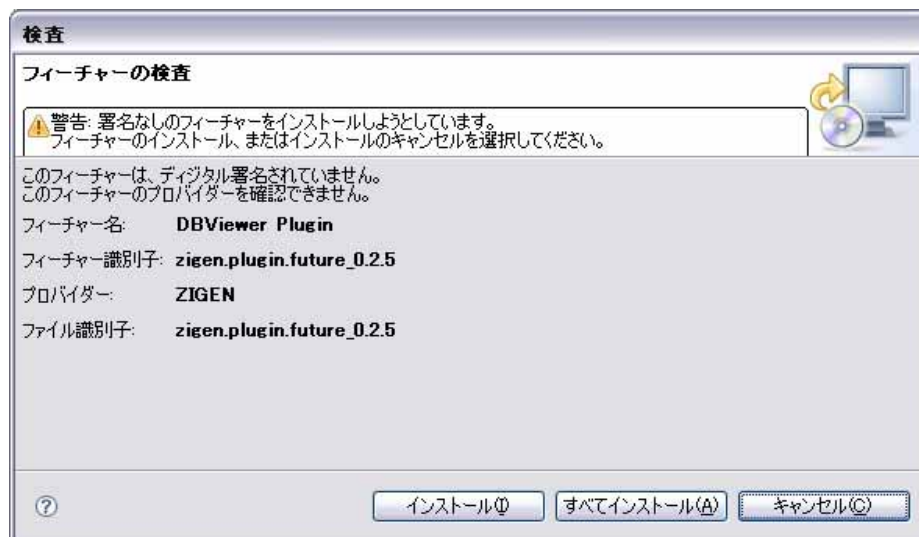


DBViewer Plugin for Eclipse 利用マニュアル

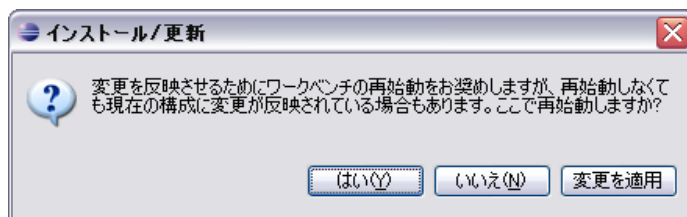
「終了」ボタンを押下します。



「インストール」ボタン(または「すべてインストール」)を押下します。

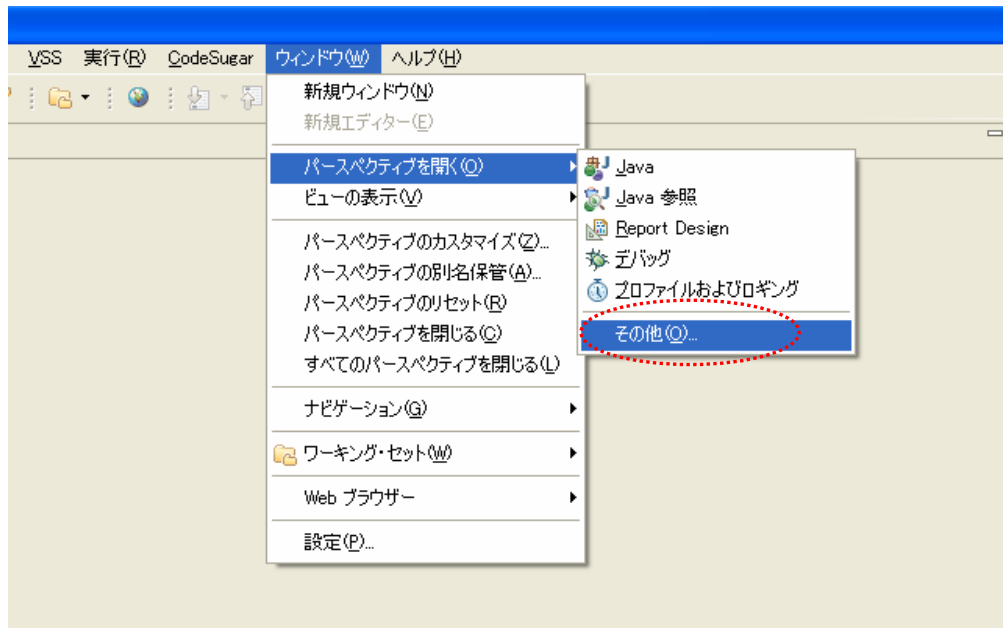


「はい」ボタンを押下し、インストールは完了です。

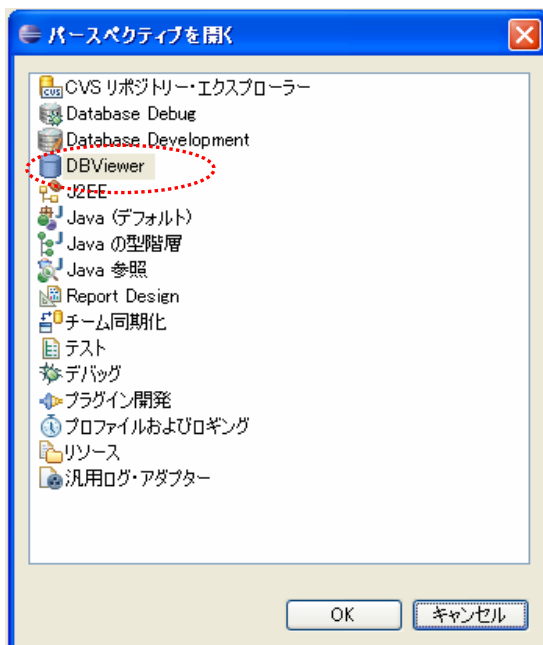


第2章 DBViewerパースペクティブの切り替え

1. パースペクティブを切り替えます
ウィンドウ > パースペクティブを開く > その他 を選択します。

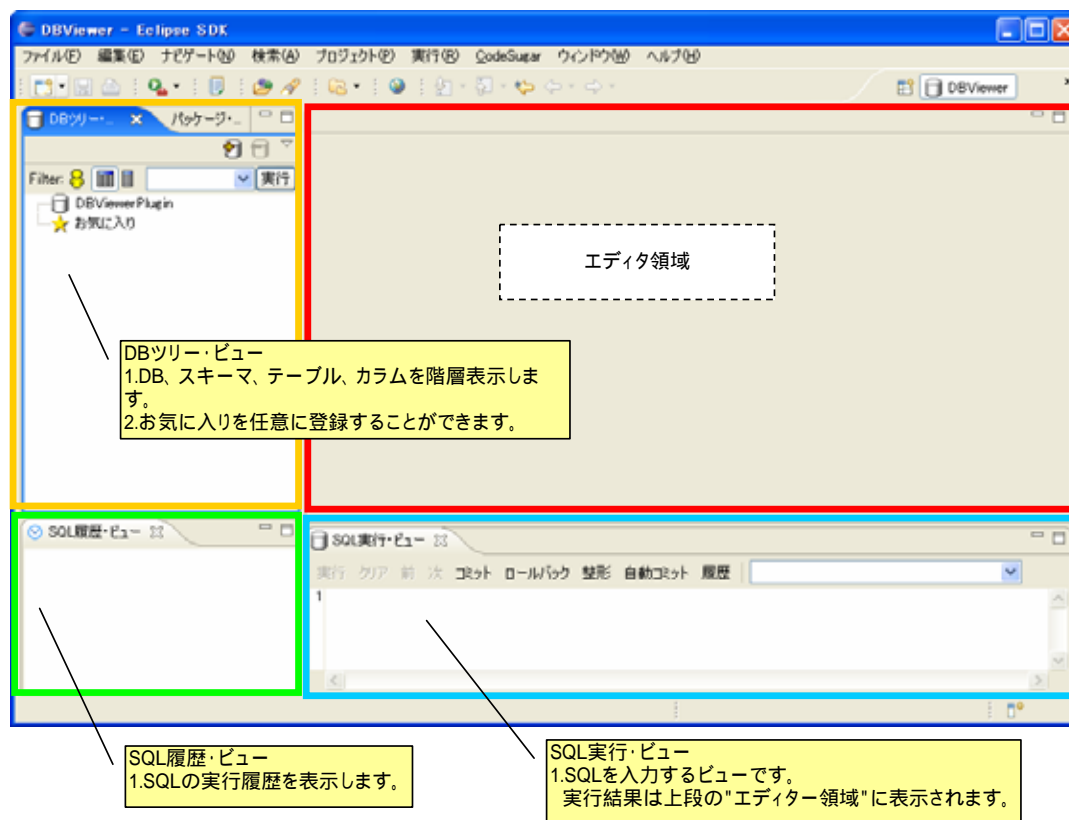


一覧から、「DBViewer」を選択します。



DBViewer Plugin for Eclipse 利用マニュアル

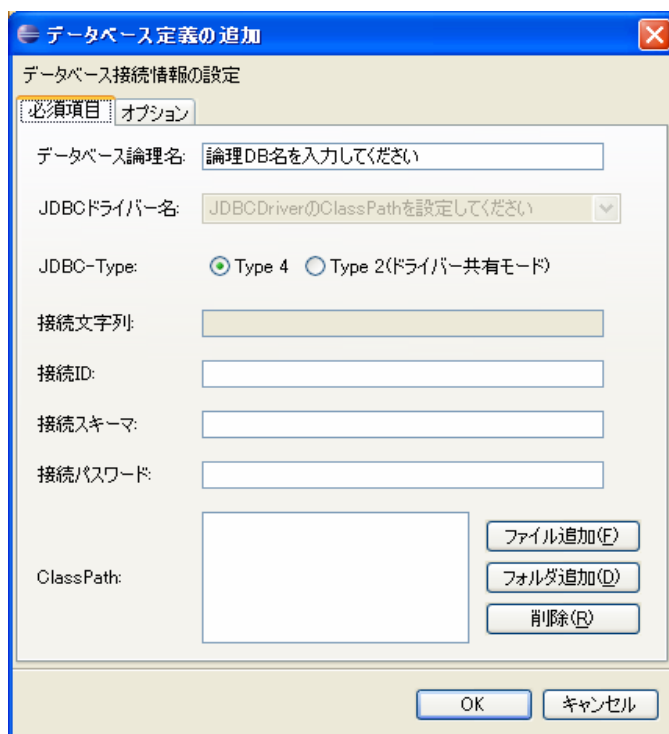
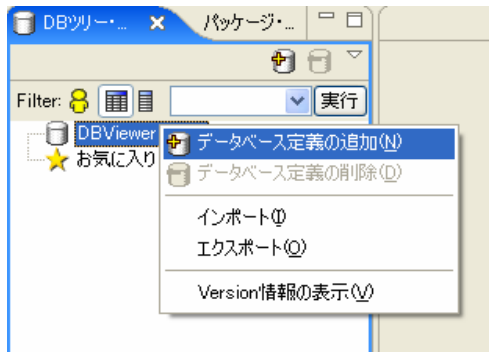
DBViewerのパースペクティブが表示されます。



第3章 データベースに接続

1. データベース定義を追加します。

DBツリービューの「DBViewerPlugin」のアイコンを右クリックし、「データベース定義の追加」を選択します。



留意事項

DBViewerPluginは、JDBC経由で接続します。
接続するデータベースが提供しているドライバーを使用してください。

DBViewer Plugin for Eclipse 利用マニュアル

2. データベース定義の入力順について

任意の接続名を入力します。
JDBC Driverのファイル(またはフォルダ)を選択します。

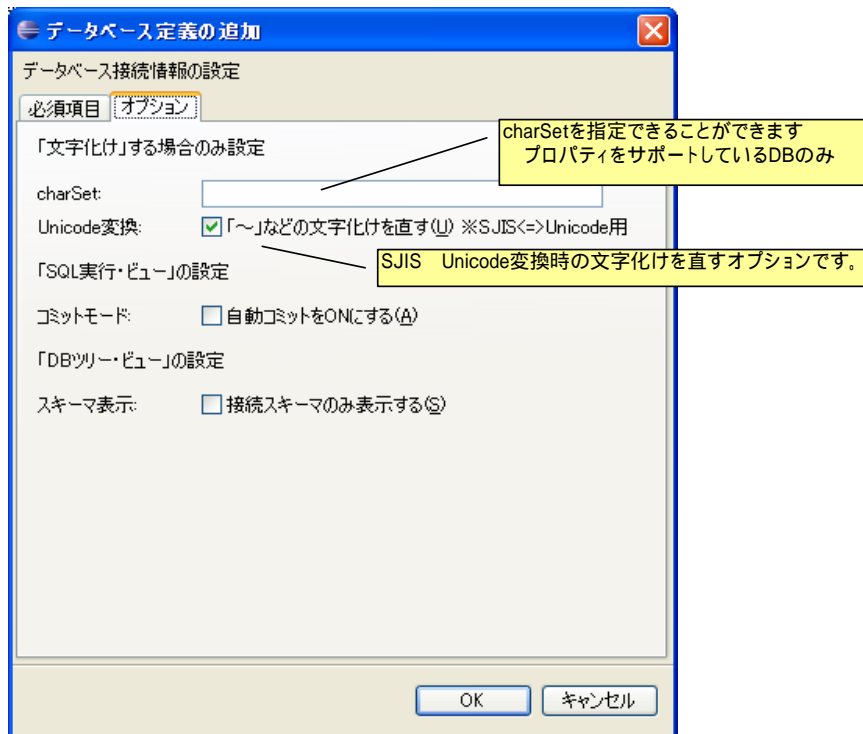
JDBC-Typeを選択します。
例 Oracleの場合、Thin接続であればType4、OCI接続であればType2を選択します。
接続文字列を編集します。
例 サーバ名=Server1, 接続ポート=1521, SID=ORCL の場合(Oracle)

jdbc:oracle:thin:@server1:1521:orcl

接続ID、接続スキーマ、接続パスワードを入力します。

DBViewer Plugin for Eclipse 利用マニュアル

3. データベース接続オプションについて(任意)



charsetオプション: "SJIS"などのCharsetを指定できます。(サポートしているDBのみ)

Unicode変換: Oracleのデータベースを"JA16SJIS"で作成した場合に、オンにします。
JA16SJISTILDEでデータベースを作成している場合は設定は不要です。

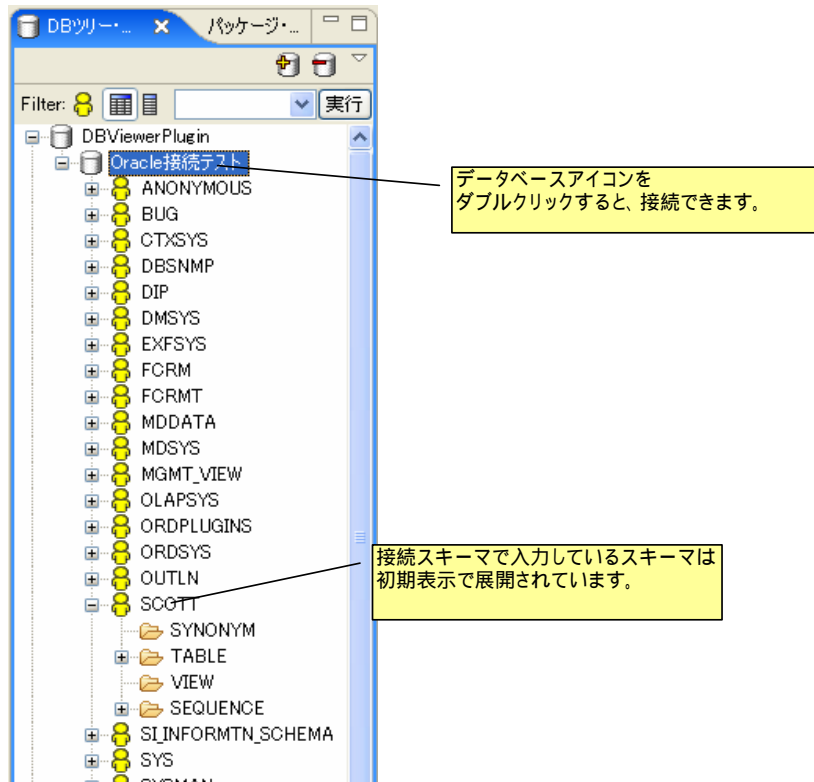
コミットモード: SQL実行ビューで自動コミットをONにするかどうかの設定です。

スキーマ表示: 接続スキーマだけを表示する場合にONにします。(スキーマサポートのDBのみ)

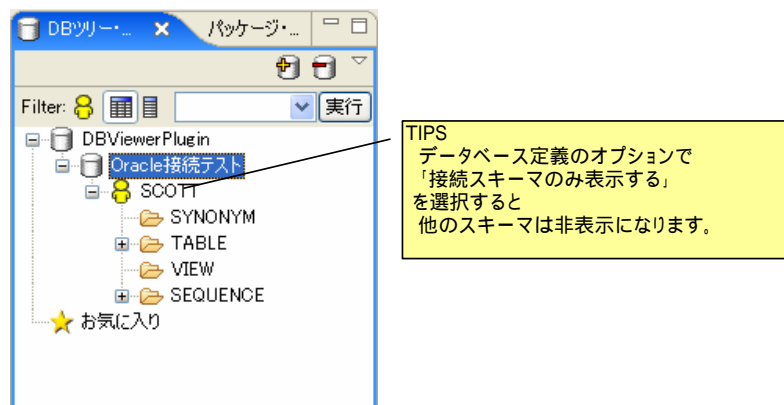
DBViewer Plugin for Eclipse 利用マニュアル

4. データベースに接続する

DBツリービューにある「DBViewerPlugin」を展開すると、作成したデータベースが表示されます。
作成した「Oracle接続テスト」をダブルクリックすると、データベースに接続します。
「Oracle接続テスト」のアイコンを右クリック > 「接続」を選択しても同様です。



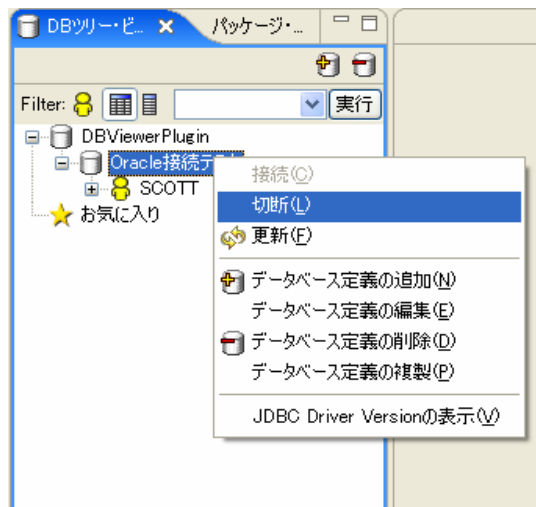
5. 「接続スキーマのみ表示」をONにした場合の表示例



DBViewer Plugin for Eclipse 利用マニュアル

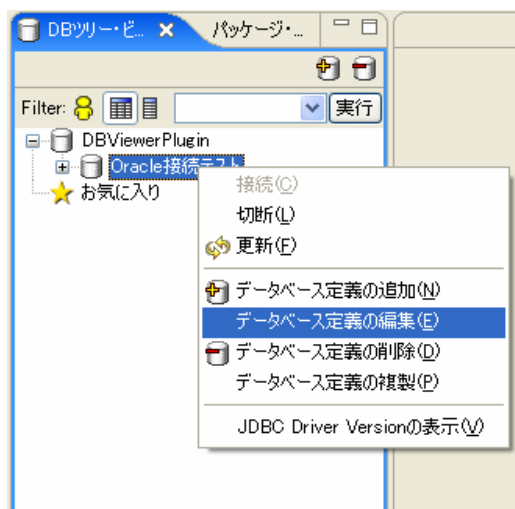
6. データベースから切断する

「Oracle接続テスト」アイコンを右クリックし、切断を選択します。
切断せずに、Eclipseを終了しても、データベース接続は残りません。



7. データベース定義の編集、削除、複製

「Oracle接続テスト」アイコンを右クリックすると、メニューが表示されます。

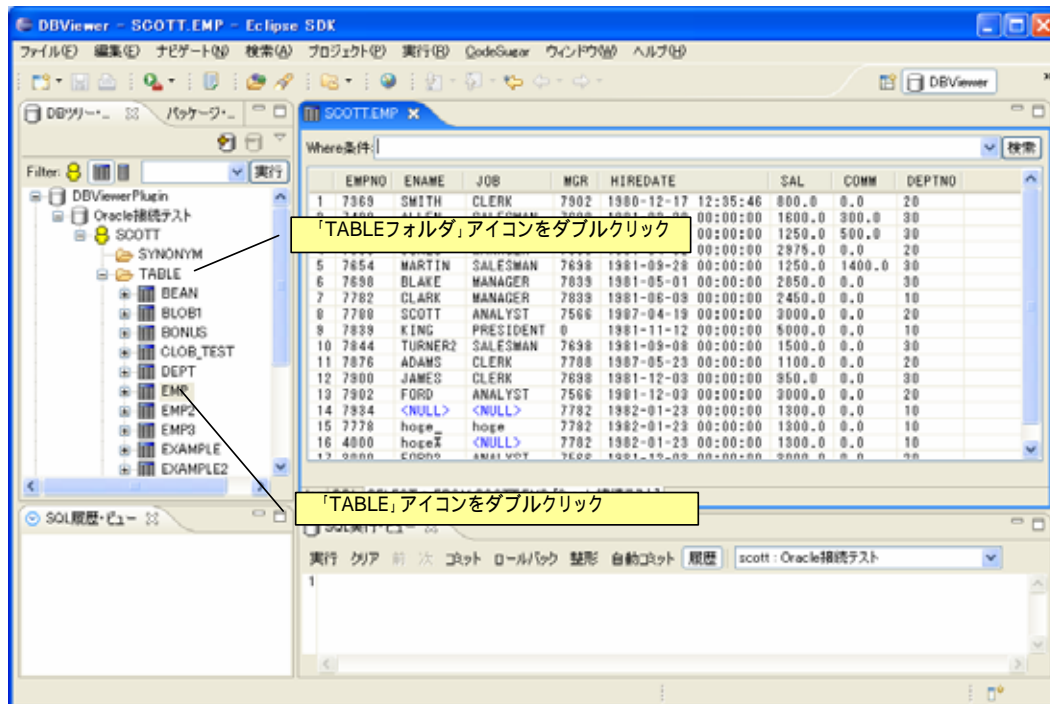


第4章 テーブルデータを表示する

1. テーブルのデータを表示する

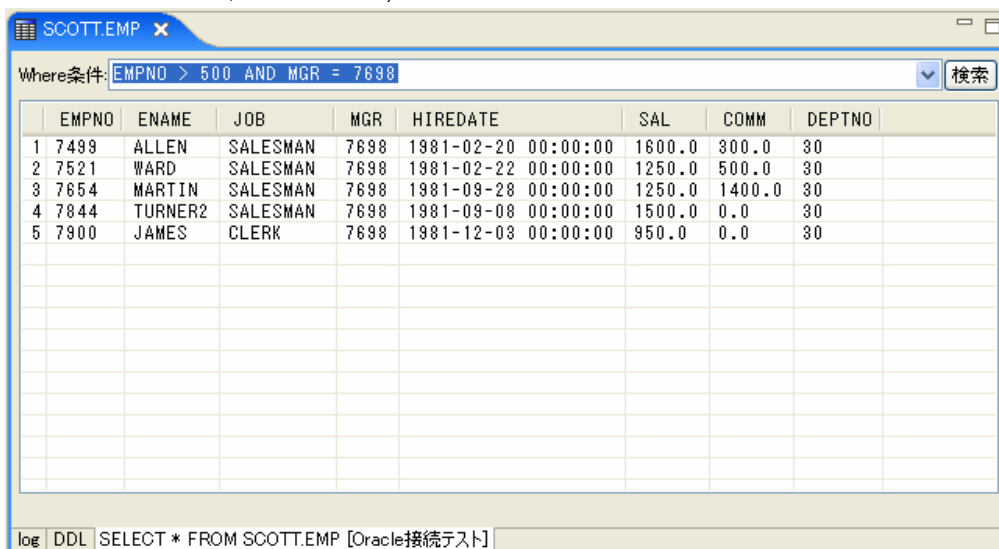
「TABLE」フォルダを展開すると、「テーブルアイコン」の一覧が表示されます。

「テーブルアイコン」をダブルクリックすると、格納されているデータが表形式で表示されます。



2. 表示データを絞り込み (Where条件を指定して実行)

Where条件に、絞り込み条件(Where句は不要)を入力し、検索ボタンを押下 (もしくはENTER)することで絞り込みができます。



DBViewer Plugin for Eclipse 利用マニュアル

3. 表示データの並べ替え(ソート)

[見た目上の並べ換え]

Where条件: EMPNO > 500 AND MGR = 7698

	EMPNO	ENAME	JOB	MGR	HIREDATE	SAL	COMM	DEPTNO
5	7900	JAMES	CLERK	7698	1981-12-03 00:00:00	950.0	0.0	30
4	7844	TURNER2	SALESMAN	7698	1981-09-08 00:00:00	1500.0	0.0	30
3	7654	MARTIN	SALESMAN	7698	1981-09-28 00:00:00	1250.0	1400.0	30
2	7521	WARD	SALESMAN	7698	1981-02-22 00:00:00	1250.0	500.0	30
1	7499	ALLEN	SALESMAN	7698	1981-02-20 00:00:00	1600.0	300.0	30

log DDL SELECT * FROM SCOTT.EMP [Oracle接続テスト]

[SQLによる並べ替え]

Where条件: EMPNO > 500 AND MGR = 7698 ORDER BY EMPNO DESC

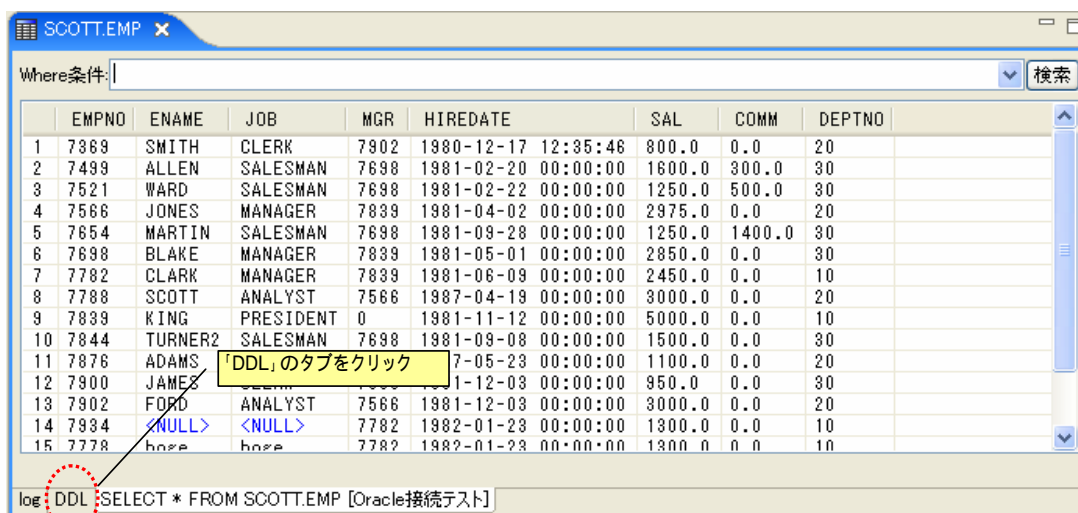
	EMPNO	ENAME	JOB	MGR	HIREDATE	SAL	COMM	DEPTNO
1	7900	JAMES	CLERK	7698	1981-12-03 00:00:00	950.0	0.0	30
2	7844	TURNER2	SALESMAN	7698	1981-09-08 00:00:00	1500.0	0.0	30
3	7654	MARTIN	SALESMAN	7698	1981-09-28 00:00:00	1250.0	1400.0	30
4	7521	WARD	SALESMAN	7698	1981-02-22 00:00:00	1250.0	500.0	30
5	7499	ALLEN	SALESMAN	7698	1981-02-20 00:00:00	1600.0	300.0	30

log DDL SELECT * FROM SCOTT.EMP [Oracle接続テスト]

第5章 テーブル情報の表示

1. DDL文の表示

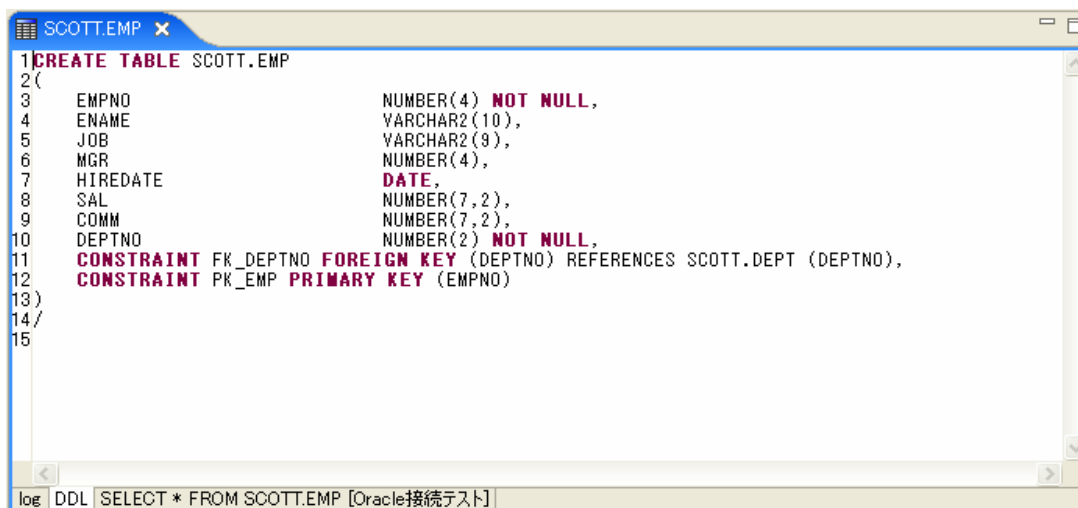
テーブルエディターの下部にある「DDL」タブをクリックするとDDL文が表示されます。



Where条件: [検索]

	EMPNO	ENAME	JOB	MGR	HIREDATE	SAL	COMM	DEPTNO
1	7369	SMITH	CLERK	7902	1980-12-17 12:35:46	800.0	0.0	20
2	7499	ALLEN	SALESMAN	7698	1981-02-20 00:00:00	1600.0	300.0	30
3	7521	WARD	SALESMAN	7698	1981-02-22 00:00:00	1250.0	500.0	30
4	7566	JONES	MANAGER	7839	1981-04-02 00:00:00	2975.0	0.0	20
5	7654	MARTIN	SALESMAN	7698	1981-09-28 00:00:00	1250.0	1400.0	30
6	7698	BLAKE	MANAGER	7839	1981-05-01 00:00:00	2850.0	0.0	30
7	7782	CLARK	MANAGER	7839	1981-06-09 00:00:00	2450.0	0.0	10
8	7788	SCOTT	ANALYST	7566	1987-04-19 00:00:00	3000.0	0.0	20
9	7839	KING	PRESIDENT	0	1981-11-12 00:00:00	5000.0	0.0	10
10	7844	TURNER2	SALESMAN	7698	1981-09-08 00:00:00	1500.0	0.0	30
11	7876	ADAMS	CLERK	7566	7-05-23 00:00:00	1100.0	0.0	20
12	7900	JAMES	CLERK	7566	1-12-03 00:00:00	950.0	0.0	30
13	7902	FORD	ANALYST	7566	1981-12-03 00:00:00	3000.0	0.0	20
14	7934	<NULL>	<NULL>	7782	1982-01-23 00:00:00	1300.0	0.0	10
15	7778	base	base	7782	1982-01-23 00:00:00	1300.0	0.0	10

log DDL SELECT * FROM SCOTT.EMP [Oracle接続テスト]

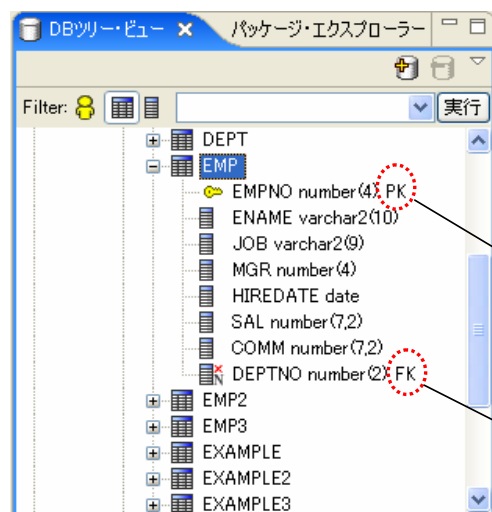


```

1 CREATE TABLE SCOTT.EMP
2 (
3     EMPNO          NUMBER(4) NOT NULL,
4     ENAME          VARCHAR2(10),
5     JOB            VARCHAR2(9),
6     MGR            NUMBER(4),
7     HIREDATE       DATE,
8     SAL            NUMBER(7,2),
9     COMM           NUMBER(7,2),
10    DEPTNO         NUMBER(2) NOT NULL,
11    CONSTRAINT FK_DEPTNO FOREIGN KEY (DEPTNO) REFERENCES SCOTT.DEPT (DEPTNO),
12    CONSTRAINT PK_EMP PRIMARY KEY (EMPNO)
13 )
14 /
15
log DDL SELECT * FROM SCOTT.EMP [Oracle接続テスト]
    
```

2. DBツリービューで表示されるカラム情報の見方




テーブルを展開するとカラム一覧が表示されます。



Filter: [実行]

- DEPT
 - EMPNO number(4) PK
 - ENAME varchar2(10)
 - JOB varchar2(9)
 - MGR number(4)
 - HIREDATE date
 - SAL number(7,2)
 - COMM number(7,2)
 - DEPTNO number(2) FK
- EMP2
- EMP3
- EXAMPLE
- EXAMPLE2
- EXAMPLE3

アイコンの意味

-  プライマリキーを表します。
-  Null可能なカラムを表します。
-  Not Nullのカラムを表します。

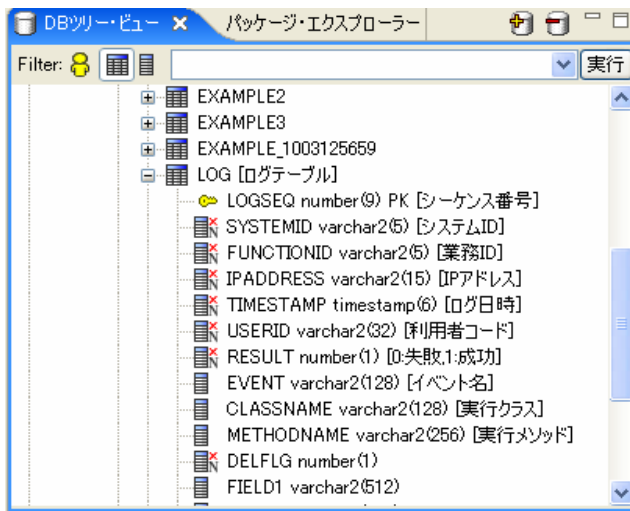
プライマリキーになっている場合は「PK」が表示されます。

外部キーになっている場合は「FK」が表示されます。

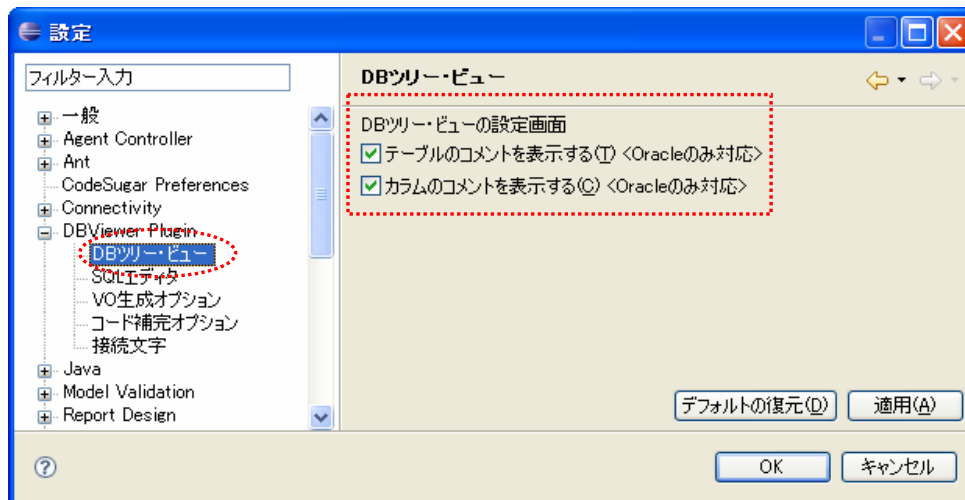
DBViewer Plugin for Eclipse 利用マニュアル

3. テーブルコメント、カラムコメントの表示 (Oracleのみ)

Oracleの場合、テーブルやカラムにコメントがあると以下のように表示されます。

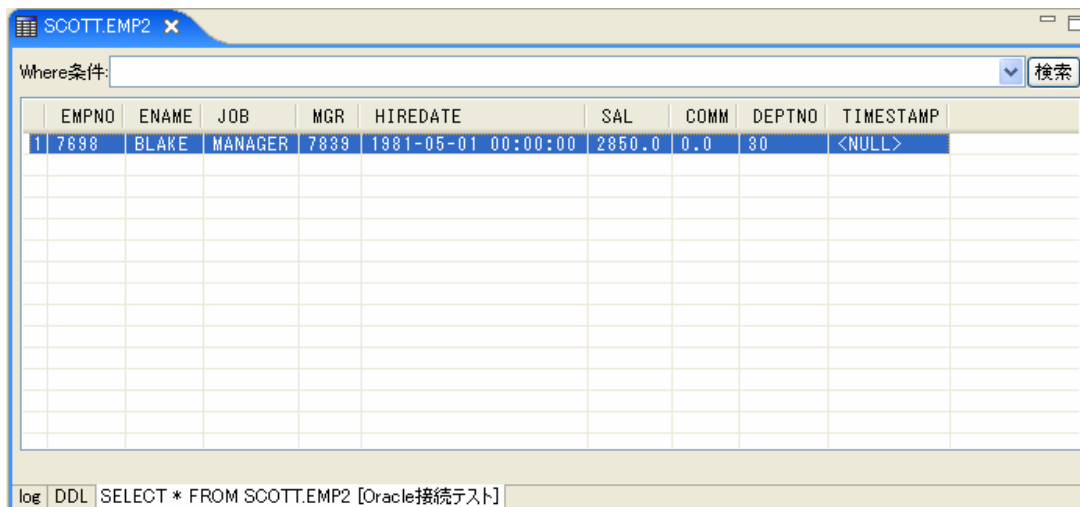


コメントを非表示に設定するには
ウィンドウ > 設定 を選択し、設定ダイアログを表示します。
DBViewerPluginの「DBツリー・ビュー」を選択すると、
テーブルコメントの表示・非表示
カラムコメントの表示・非表示
を設定することができます。



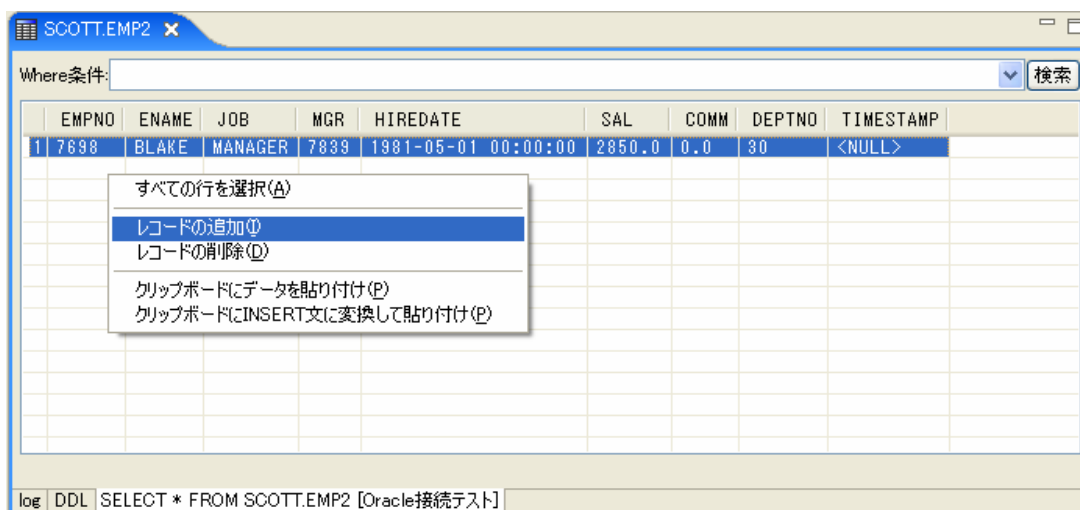
第6章 データを編集する

編集対象のテーブルエディターを起動します。



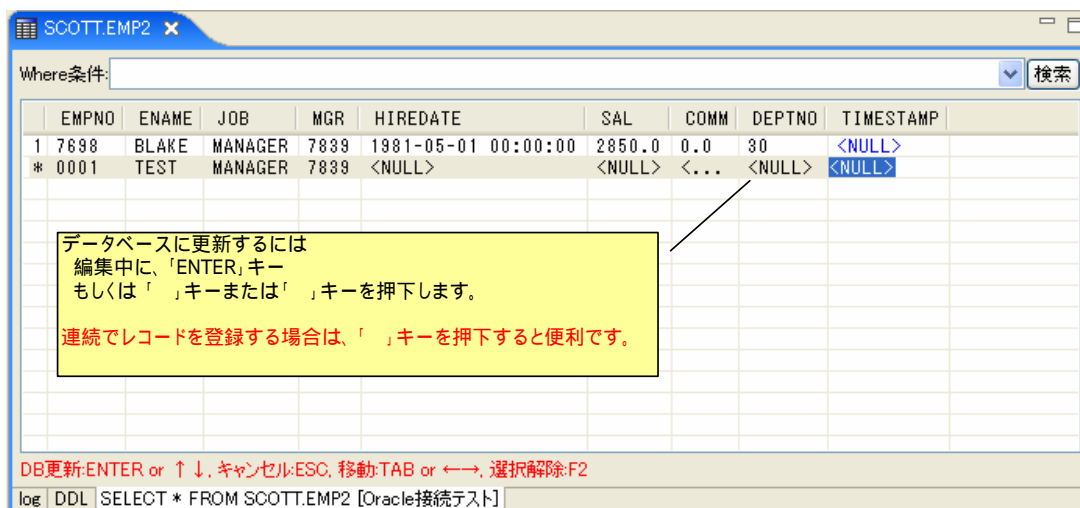
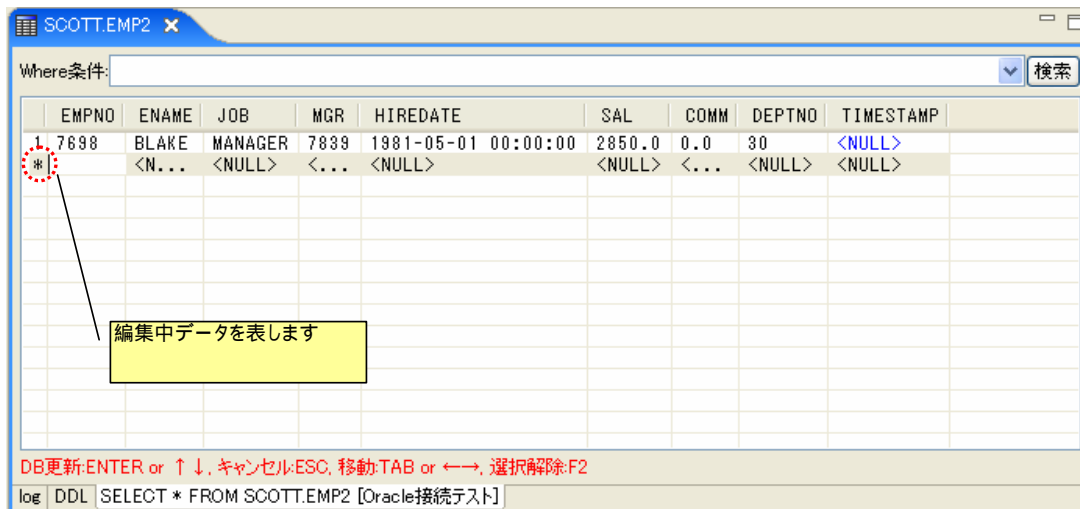
1. データの追加

テーブルエディターのデータ領域で右クリックし、「レコードの追加」を選択します。

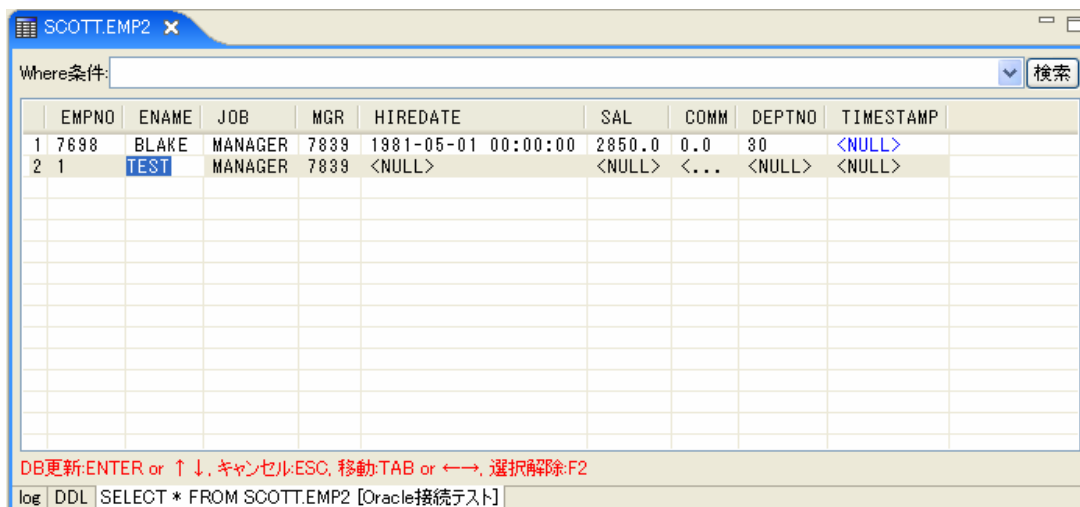


DBViewer Plugin for Eclipse 利用マニュアル

データを入力します。
行番号が「*」となっているレコードは「編集集中」を表します。
別のカラムへの移動は、TABキー(順方向)、またはShift+TAB(逆報告)
もしくは、マウスでデータをクリックします。



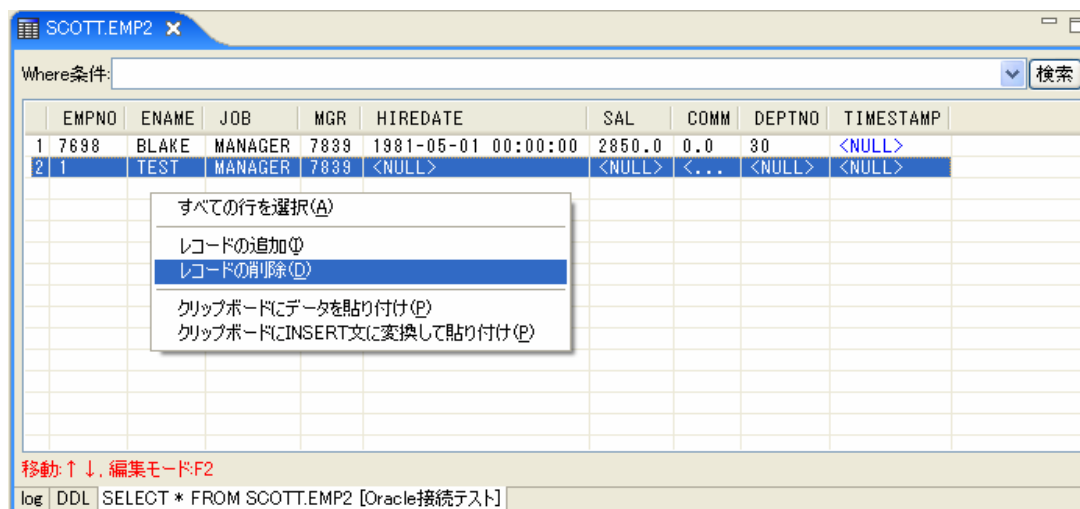
3. データの更新
テーブルエディターで、編集したいカラムをマウスでクリックします。
編集後の操作は、データの追加と同様です。



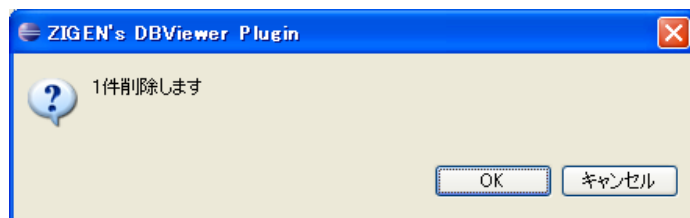
DBViewer Plugin for Eclipse 利用マニュアル

3. データの削除

テーブルエディターで、削除対象行を選択します。
右クリックし、「レコードの削除」を選択します。



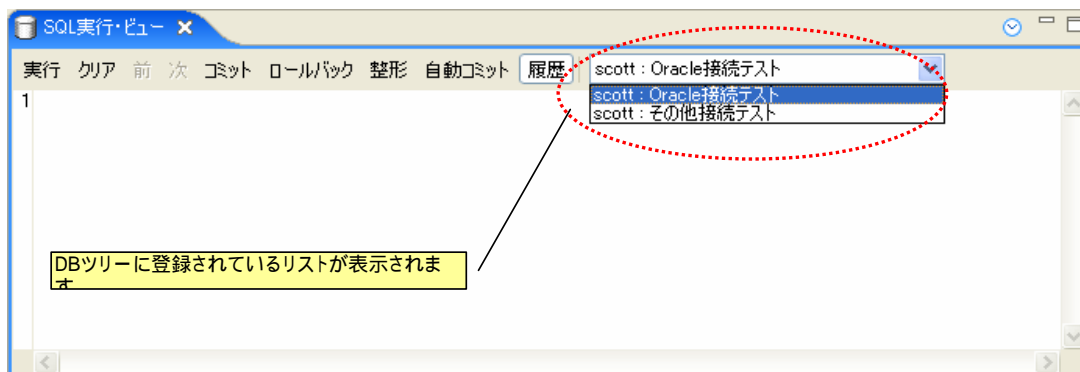
確認ダイアログが表示され、OKボタンを押下するとデータベースから削除されます。



第7章 SQL実行

1. SQL文を実行する

接続先を選択します。



SQL文を入力し、実行ボタンを押下するとSQLが実行されます。

Select文の実行

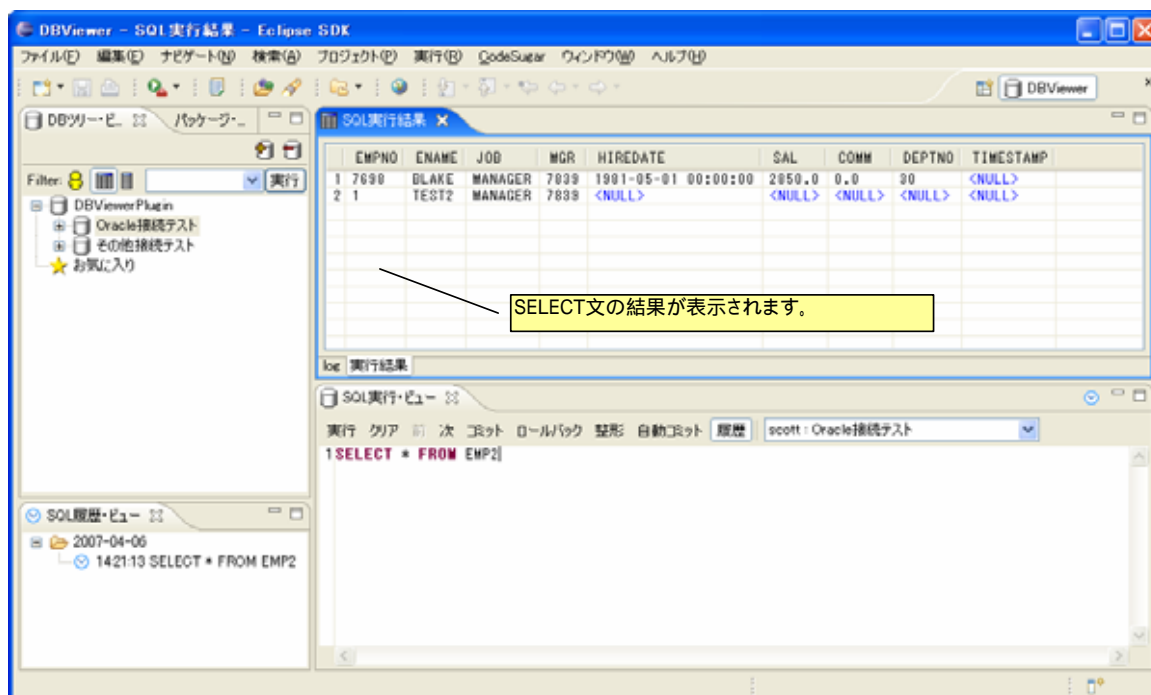
実行結果がエディターに表示されます。(SQL実行結果)

Insert/Update/Delete文の実行

自動コミットモードの場合は、自動的にコミットされます。

手動コミットモードの場合は、コミットボタンまたはロールバックボタンを押下してください。

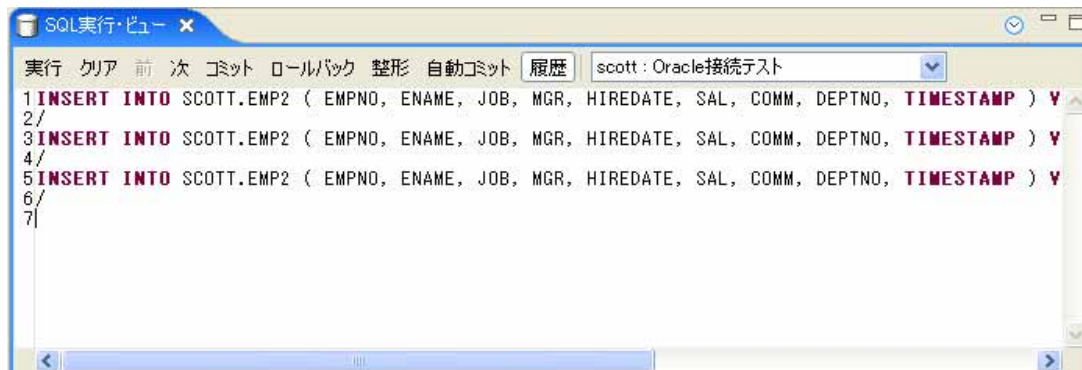
コミット、ロールバックを忘れたままEclipseを終了した場合は、ロールバックされます。



DBViewer Plugin for Eclipse 利用マニュアル

2. 複数のSQL文を実行する

複数のSQLを連続実行するには、SQL文の後に、改行 + /(スラッシュ) + 改行 を入力してください。
実行ボタンまたは「Shift+Enter」を押下すると、「全てのSQL」が実行されます。



3. 複数のSQLから指定したSQLを実行する

Ctrl+Enterを押下すると、編集中のSQL文のみ実行することができます。(カーソル位置のSQL文が対象)
右クリックして、「指定SQLの実行」を選択して実行することもできます。

SQL文を選択し、右クリックして「指定SQLの実行」を選択すると、指定した部分だけのSQLを実行することができます。
例 副問い合わせだけを実行させて内容を確認することができます。

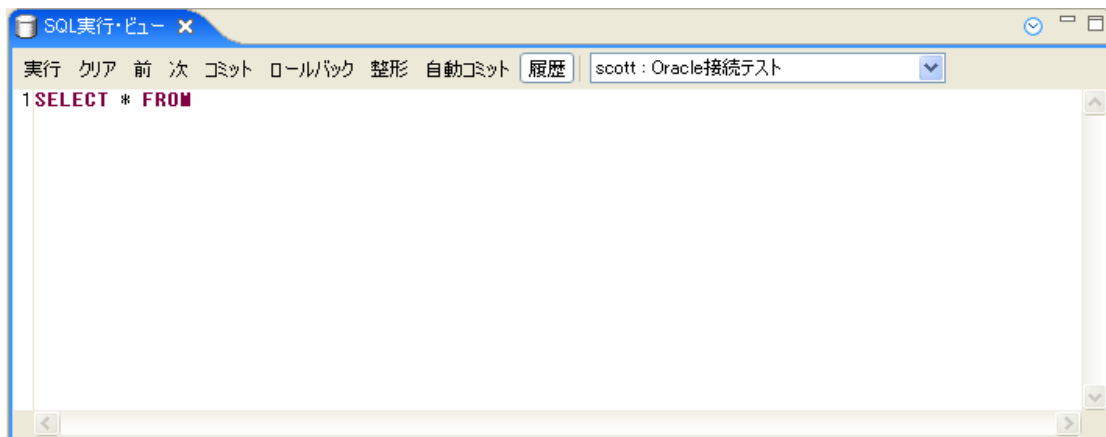


第8章 SQL入力補完(コード補完)

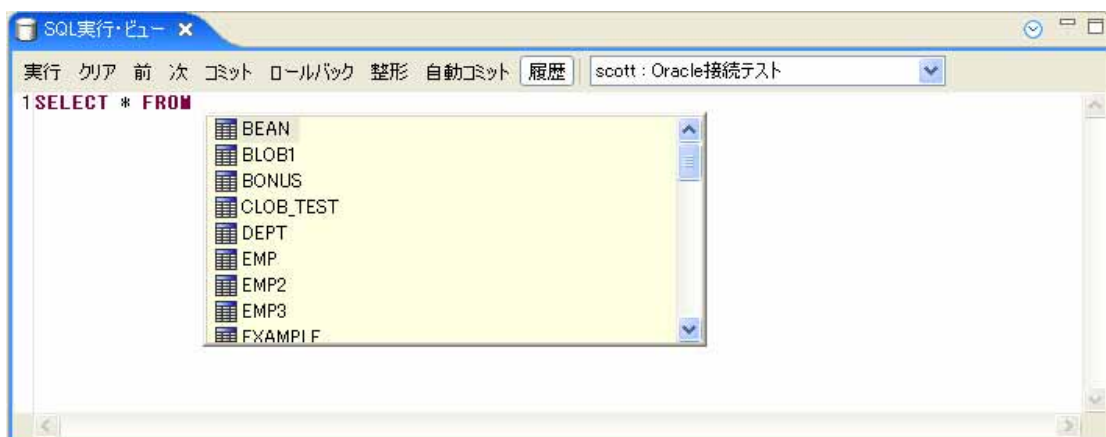
1. SQL入力中に、「Ctl+Space」や「.(ピリオド)」を入力すると、補完リストが表示されます。

Select文を入力する場合の例です。

Ctl+Space を押下し、「SQLキーワード」の一覧を表示します。
SELECT * FROM を選択します。

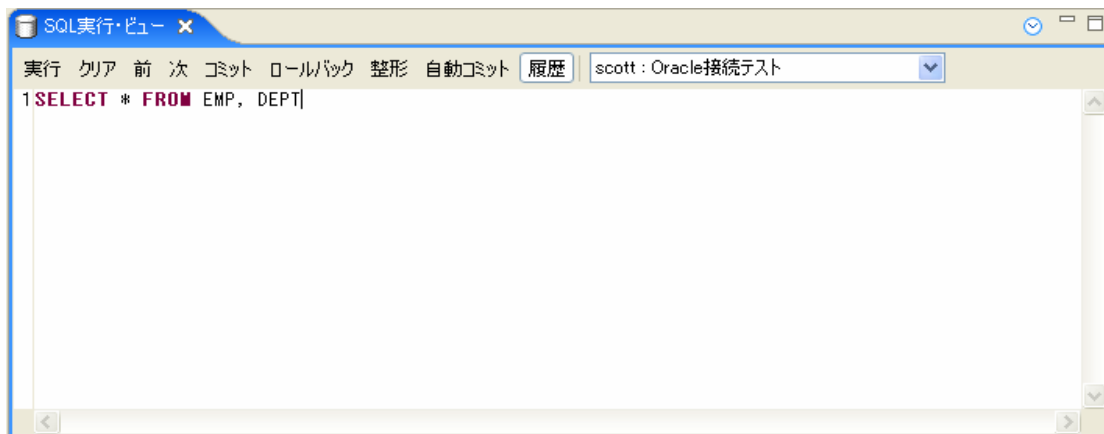


空白を1つ空けて、Ctl+Space を押下し、「テーブル一覧」を表示します。



DBViewer Plugin for Eclipse 利用マニュアル

次に、カラムを選択するために、Select節の後にカーソルを移動します。
今回は、* は不要なので、削除しておきます。



Select節で、Ctl+Spaceを押下すると、From節で定義したテーブル一覧を表示します。



DBViewer Plugin for Eclipse 利用マニュアル

テーブルを選択した後、ピリオドを入力しカラム一覧を表示します。

